

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成29年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
29-6	生産性向上とライフサイクルコストの削減に資する膨張材併用軽量床版の研究開発	東京大学 教授 岸 利治	A
<p><研究の概要> ※成果報告レポートより引用</p> <p>生産性向上とライフサイクルコストの削減に資する膨張材併用軽量床版を実用化するため、耐疲労性と圧送性の検討を研究目的として、実物大供試体を用いた輪荷重走行試験と、夏季と冬季のポンプ圧送試験および凍結融解試験を実施して、膨張材併用軽量床版の研究開発を行った。</p> <p><事後評価結果></p> <p>当初の研究目的は達成され、軽量コンクリート床版のこれまでの弱点を克服し、かつ実用化の域に達していることから、十分な研究成果があったと考えられる。今後は広く普及するための取り組みに焦点を当てていくことが必要であると考えられる。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none">1. 設計マニュアル作成へ進むことを期待する。2. 目標とする床版は開発できたことが確認できた。広く実用されることを期待する。3. ライフサイクルコストの効果を明示して頂きたい。目地や間詰めの開発にもチャレンジいただきたい。4. 実務への反映に向けて必要となる道路橋示方書との適合性評価にあたり、一定の知見が得られたものと考えられる。5. 一旦たわみが増加し始めると急激に破壊に至るという特徴が見られ、供用中の状態の把握、診断の観点からはRC床版と同じでないと考えられ、また、予防保全がしにくくなっている可能性も考えられる。このため、メカニズムの考察を行う必要がある。また、道路管理者が採用の検討を行うときに考慮すべき着眼点として耐久性以外のリスクも提示すべきである。			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第37回新道路技術会議において審議したものである。